

あいだ／生成

第八号

二〇一八年

あいだ哲学会

Between / Becoming, Vol. 8, 2018
Society of In-between Philosophy

あいだ哲学会規約

- 1 本会は、あいだ哲学会と称し、事務局を京都大学大学院・人間環境学研究科武田宙也研究室に置く。
- 2 本会は、〈あいだ〉への問題意識にもとづく哲学的研究とその発展を目的とする。
- 3 本会の会員は、京都大学大学院人間・環境学研究科武田宙也研究室の関係者ならびに委員会の推薦を受けた者とする。
- 4 本会は、次の事業を行う。
 - (ア) 学会誌『あいだ／生成』の刊行。
 - (イ) 研究会、講演会等の開催。
 - (ウ) その他必要な事業。
- 5 本会の運営を遂行するために委員会を設置する。
- 6 委員会は、若干名の幹事を委嘱することができる。
- 7 規約の改正等の重要事項については、委員会の審議を経て決定する。

『あいだ／生成』投稿規定

- 1 投稿資格は原則として会員に限る。
- 2 投稿論文の内容は未発表のものに限る。二重投稿は認めない。
- 3 原稿の採否は委員会の委嘱を受けた編集委員が審議の上決定する。
- 4 掲載された論文の著作権は著者に帰属する。掲載された論文等は原則として電子化し、インターネット等を通じて公開する。

〔編集後記〕

『あいだ／生成』第8号を、お届けする。本号は3編の論考と3編の書評を掲載した。論考はマグリット論と中上健次論、それから煎茶についてのものであり、いずれも年来の研究から生み出された力作である。また書評では、研究室出身者の著書から昨年出版されたものを取り上げ、それぞれ独自の観点から論じてもらった。対象となった著書が優れた成果であることはいままでもないが、書評のほうも、それ自体で読ませる熱のこもったものとなっている。研究室関係者の著書を本誌で毎号取り上げることができるのは喜ばしく、ぜひ今後も続いてほしいと願う。

(武田宙也)

〔編集委員〕

蘆田 裕史
 尼ヶ崎 彬
 石田 美紀
 石谷 治寛
 岡田 温司
 岡本 源太
 喜多恵美子
 武田 宙也
 橋本 梓
 山内 朋樹

〔編集幹事〕

原 暎

『あいだ／生成』 第8号

発行日：平成30年（2018年）3月29日

編集・発行：あいだ哲学会

京都大学大学院人間・環境学研究科武田宙也研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 tel: 075-753-6540

【論文】

1960年代アメリカにおけるルネ・マグリットとモダニズムの関係	利根川由奈	1
中上健次「蛇淫」論——「事実の肯定」をめぐる——	旦部辰徳	20
煎茶を介した文人たちの交遊——頼山陽を中心として——	島村幸忠	34

【書評】

都留ドウヴォー恵美里		
『日系ブラジル人芸術と〈食人〉の思想——創造と共生の軌跡を追う』	福田安佐子	52
利根川由奈『ルネ・マグリット 国家を背負わされた画家』	笈菜奈子	57
渡辺洋平		
『ドゥルーズと多様体の哲学——二〇世紀のエピステモロジーにむけて』	原壘	61

あいだ／生成

Between / Becoming

[Article]

TONEGAWA Yūna	The Relationship Between René Magritte and Modernism in 1960s US
TANBE Tatsunori	A Study on "Affirmation of Fact" in Jain by Kenji Nakagami
SHIMAMURA Yukitada	About a Role of Sencha in Japanese Bunjin's Companionships: With a Central Focus on Rai Sanyo

[Book Review]

FUKUDA Asako	Emilie TSURU-DEVAUX, <i>Nikkei Burajirujin geijyutu to Syokujin no Shisō: Sōzō to Kyōsei no Kiseki wo Ou</i>
KAKEI Nanako	TONEGAWA Yūna, <i>René Magritte Kokka wo Seowasareta Gaka</i>
HARA Rui	WATANABE Yōhei, <i>Deleuze to Tayōtai no Tetsugaku: Nijusseiki no Episutemorōjī ni Mukete</i>